|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **（１）****地震発生時の対応** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 緊急地震速報を見聞きしてから，また，突然揺れを感じてから，揺れがおさまるまで適切に行動する。 | 1) | 周囲を確認し，あわてずに，まず身の安全を確保する。 | ◇ | 行 | ・[地震　その時](http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/bou_topic/jisin/point10.htm)　[10のポイント](http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/bou_topic/jisin/point10.htm)(東京消防庁) |
| 2) | 頭を保護し，丈夫な机の下など安全な場所に避難する。 | ◇ | 行 |
| 3) | 人が大勢いる施設では，係員の指示に従う。 | ◇ | 行 |
| 4) | 鉄道やバスなどに乗車中は，つり革や手すりなどにしっかりつかまる。 | ◇ | 行 |
| 5) | エレベーターでは最寄りの階ですぐ降りる。 | ◇ | 行 |
| 6) | 屋外では，落石や崖崩れ，ブロック塀の倒壊や看板やガラスの落下に注意する。 | ◇ | 行 |
| ② | 揺れがおさまった後，余震に注意して適切に行動する。 | 1) | 大きな地震の後には大きな余震があることを前提として避難する。 | ◇ | 行 |
| 2) | 本震で建物に亀裂が入った場合は，余震による二次災害が発生する可能性が高い。 | ◇ | 行 |
| 3) | 倒れそうになっている家具や落ちかけた照明などには近づかない。 | ◇ | 行 |
| 4) | ブロック塀や門柱には近づかない。 | ◇ | 行 |
| ③ | 地震により，火災や津波，土砂崩れ，土石流及び液状化が発生することを知り，適切に行動する。 | 1) | 地震後の火災に注意する。 | → | 行 |
| 2) | 土砂崩れがあるかもしれないので，崖に近づかない。 | ◇ | 行 |
| 3) | 土石流があるかもしれないので，川や沢には近づかない。 | ◇ | 行 |
| 4) | 液状化（土や泥が流れだし）しているところには大きな穴があったり，地盤がゆるく，ぬかるんでいたりするので近づかない。 | ◇ | 行 |
| 5) | 津波が来るかもしれないので海岸や河川には近づかない。 | ◇ | 行 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| **（２）地震の大きな揺れの後の知識** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 　地震の大きな揺れにより，斜面などが普段より脆弱になっていることを知る。 | 1) | 少しの雨でも土砂災害が起こることがある。 | ◇ | 行 |  |
| 2) | 崖などに亀裂が入ることがある。 | ◇ | 行 |
| 3) | 震度５強以上を観測した地域は，大雨警報・注意報の基準を通常より引き下げることがある。 | ◎ | 行 |
| ② | 地震の大きな揺れにより，堤防などの施設が損傷することがある。 | 1) | 堤防などの施設が損傷することがある。 | ◇ | 行 |
| 2) | これまでより少ない雨量で堤防などが損傷し，洪水となることがある。 | ◇ | 行 |
| 3) | 排水施設の損傷により，これまでより少ない雨で浸水することがある。 | ◇ | 行 |
| 4) | 震度５強以上を観測した地域は，大雨，洪水警報・注意報の基準を通常より引き下げることがある。 | ◎ | 行 |
| ③ | 地震の大きな揺れにより，地盤沈下や隆起などの変動がおきることがあることを知る。 | 1) | 地盤沈下により，これまで海水の入らなかった地域へ海水が入り込むことがある。 | ◇ | 行 |
| 2) | 高潮により，これまで以上に浸水の被害がおこる。 | ◇ | 行 |
| 3) | 地盤沈下により，高潮警報・注意報の基準を通常より引き下げることがある。 | ◎ | 行 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **（３）地震に関する知識（宮城県における地震）** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 地震が起こるメカニズムと地震の特徴（本震後の余震）について知る。 | 1) | 地震の発生する仕組みを理解する。 | ◎ | 教 | ・[地震　その時](http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/bou_topic/jisin/point10.htm)　[10のポイント](http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/bou_topic/jisin/point10.htm)　(東京消防庁) |
| 2) | 大きな地震が発生すると，その近くで最初の地震より小さな地震が発生する。最初の大きな地震を本震，その後引き続き起こる地震を余震という。 | ◎ | 教 |
| 3) | 日本周辺には，北アメリカプレート，太平洋プレート，フィリピン海プレート，ユーラシアプレートの４つが存在しており，日本は地震大国である。 | ◎ | 教 |
| ② | 地震の規模（マグニチュード）や揺れの強さ（震度）を示す尺度について知る。　 | 1) | マグニチュードは地震そのものの大きさ（規模）を表し，震度はある場所での地震による揺れの強さを表す尺度。 | ◎ | 教 |
| 2) | マグニチュードと震度は例えると電球の明るさと周りの明るさとの関係に似ている。電球の明るさをあわらす値がマグニチュード，電球から離れたある場所の明るさが震度に相当する。 | ◎ | 教 |
| 3) | マグニチュードは１増えると地震のエネルギーは32倍に増え，２増えると32×32＝1024倍になる。 | ◎ | 教 |
| 4) | 震度５弱では大半の人が恐怖を覚え，震度６弱では立っていられなくなる。震度６強では，固定していない家具のほとんどが移動し，倒れるものが多くなる。 | ◎ | 教 |
| 5) | 震源からの距離が遠くても，地盤によっては震度が大きくなる。 | ◎ | 教 |
| ③ | 地震に伴って発生する「複合災害」について知り，危険の予測と回避に役立てる。 | 1) | 「複合災害」について理解する。 | ◎ | 教・行 |
| 2) | 自分が住んでいる地域で考えられる「複合災害」について理解する。 | ◎ | 教・行 |
| 3) | 「複合災害」を予測した避難の仕方を考える。 | ◎ | 教・行 |
| ④ | 揺れ始めたときの行動の仕方について，場所，時間毎に理解し，危険の予測と回避に役立てる。 | 1) | 普段から，今ここで地震が発生したらどのように避難行動をすればよいかを考える。 | ◎ | 教・行 |
| 2) | 自分が避難を誘導する立場だったら，どのように誘導すべきかを考える。 | ○　 | 教・行 |
| 3) | 避難訓練の場所や時間の設定を理解して安全に参加する。 | → | 教・行 |
| ⑤ | 緊急地震速報の仕組みについて知る。 | 1) | 大きい地震が来る前には，緊急地震速報がテレビ，ラジオ，携帯電話などに流れる。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 緊急地震速報は地震発生直後に，震源に近い地震計で捉えた観測データを解析して，震源や地震の規模を直ちに推定し，それに基づいて各地での主要動の到達時刻や震度を可能な限り早く知らせる地震動の予報及び警報である。 | ◎ | 教・行 |
| 3) | 緊急地震速報は地震発生後の地震波を捉えてから発表するものであることから，地震発生を予知するものではない。 | ◎ | 教・行 |
| 4) | 緊急地震速報を適切に活用するためには，その特性や技術的な限界を十分に理解する必要があること。 | ◎ | 教・行 |
| ⑥ | 宮城県で過去に発生した地震や津波の被害を知る。 | 1) | 宮城県では過去に何度も大きな地震や津波被害を受けている。 | → |  |
| 2) | 過去の地震津波災害の被害について知る。 | → |  |
| ⑦ | 宮城県沖で発生が予測されている地震を知る。　 | 1) | 宮城県沖では牡鹿半島の東方沖を震源とするマグニチュード７．１～７．４前後のプレート間地震が繰り返し発生している。平均発生間隔は約38.0年である。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 繰り返し発生する地震以外にも，2003年５月26日（マグニチュード７．２）や2011年４月７日（マグニチュード７．２）の地震のように，太平洋プレート内で発生した地震による被害が発生している。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 予想される最大震度が６強といわれ，立っていることができず，はわないと動くことができないくらいである。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | 固定していない家具のほとんどが移動し，倒れるものが多くなる。また，補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | 電気，水道，ガスなどのライフラインに大きな被害を受ける。 | ◇ | 教・行 |
| ⑧ | 東北地方太平洋沖地震の発生により，大きな余震や誘発地震が発生する可能性があることを知り，災害に備える。 | 1) | 東北地方太平洋沖地震は，宮城県沖と三陸沖南部海溝寄りに加え，三陸沖中部から茨城県沖までの広い範囲で地震が連動して発生した，マグニチュード９．０の巨大地震である。 | ◇ | 教・行 |  |
| 2) | 東北地方太平洋沖地震が発生した領域では，今後もマグニチュード７を超える余震が発生する可能性がある。また，これより規模が小さくても，宮城県の近くで余震が発生すれば，震度５強以上の揺れになることがある。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 東北地方太平洋沖地震の余震活動地域の外側でも強い揺れを伴う地震が発生しており，地震活動が高まっていると考えられる。大きな地震が海で起こった場合，津波が発生するおそれがある。 | ◇ | 教・行 |
| ⑨ | 宮城県沖の地震以外にも日本海溝付近や，長町－利府断層など活断層による地震が発生する可能性があり，また，岩手・宮城内陸地震のような知られていない活断層による地震もあることを知り，普段から災害に備える。 | 1) | 三陸沖北部から房総沖の海溝寄りで発生する可能性があるプレート間地震（津波地震：マグニチュード８．６～９．０）や，プレート内地震（マグニチュード８．２～８．３）は，大津波の発生する可能性がある。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 県内には活断層が多く，どこでも地震が発生する可能性がある。 | ◇ | 教・行 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **（４）地震に対する備え** | 指導時期等 | 主な指導場面 | 指導資料 |
| No | 必ず身に付けさせたい事項 | 具体の指導内容 |
| ① | 地震の備えはすべての県民が行っておくべきことであることを理解する。 | 1) | 日頃からの地震に対する備えが，身の安全を守り被害を軽減させる。 | ◇ | 教・行 |  |
| 2) | 水や食料など生命を維持するために必要な物を少なくとも３日分は準備する。 | ◇ | 教・行 |
| ② | 自分が普段いる場所をいくつか上げ，そこで地震の揺れが来た時を想像してみる。そこから普段からやっておかなければならない備えについて知り，災害に備える。 | 1) | 周囲の状況に応じて，あわてずに，まず身の安全を確保する。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 家庭や学校では，頭を保護し，丈夫な机の下など安全な場所に避難する。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 人が大勢いる施設では，係り員の指示に従う。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | 鉄道やバスなどに乗車中は，つり革や手すりなどにしっかりつかまる。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | エレベーターでは最寄りの階ですぐ降りる。 | ◇ | 教・行 |
| 6) | 屋外では，落石や崖崩れ，ブロック塀の倒壊や看板やガラスの落下に注意する。 | ◇ | 教・行 |
| ③ | 家庭で，地震が発生したときに危険なものがないか調べてみる。 | 1) | 家具が固定されているか。（特に寝室や子ども部屋のタンスなどの高い家具） | ◇ | 教・行 |
| 2) | 落下するものがないか。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | 自宅が耐震構造となっているか。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | ブロック塀は必要な補強がされているか，亀裂などは入っていないか。 | ◇ | 教・行 |
| ④ | 学校で，地震が発生したときに危険な場所や物がないか調べてみる。 | 1) | 背の高いロッカーやケース，テレビなど重い物がしっかり固定されているか。 | ◇ | 教・行 |
| 2) | 避難経路が確保されているか。 | ◇ | 教・行 |
| ⑤ | 通学路で，地震が発生したときに危険なものがないか調べてみる。 | 1) | ブロック塀の倒壊が予想される場所はないか。 | ◇ | 教・行 |  |
| 2) | 土砂崩れや液状化などが発生する場所がないか。 | ◇ | 教・行 |
| 3) | ガラスや看板など落下するおそれがあるものはないか。 | ◇ | 教・行 |
| 4) | 家屋が倒壊しそうな場所はないか。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | 路肩が崩壊しそうな場所がないか。 | ◇ | 教・行 |
| ⑥ | 登下校中に地震が発生したときの対応の方法について家族や学校で約束しておく。 | 1) | 約束事を確認する。 | → | 教・行 |
| 2) | 無事であることやけがをしたことなどをどのように連絡するか決める。 | ◎ | 教・行 |
| 3) | どこに助けを求めるのがよいかを確認する。 | → | 教・行 |
| 4) | 家族の避難場所を事前に確認する。 | ◇ | 教・行 |
| 5) | 災害伝言ダイヤル（１１７を知り，練習する。(例：毎月一日に行う。) | ◎ | 教・行 |
| ⑦ | 自転車やオートバイ及び自動車に乗っているときに地震が発生したときの対処方法を知り被害を回避する。 | 1) | 急ハンドルや急ブレーキを避けて，落ち着いて周囲の状況を確認しながら対応する。 | ◎ | 教・行 |
| 2) | 周囲の安全を確認してゆっくりと道路左側に停車する。 | ◎　 | 教・行 |
| ⑧ | 百貨店など人が集まる場所では，日ごろから非常口を確認することの大切さを知る。 | 1) | 非常口を常に確認する。 | ◎ | 教・行 |
| 2) | 緊急時は停電になることもあるが，誘導灯を頼りに避難する。 | ◎ | 教・行 |
| 3) | 緊急放送や従業員の指示に従う。 | ◎ | 教・行 |
| ⑨ | 地震でケガをしたときに，病院では重傷度と緊急性から治療の優先順位をつけて診ることを知る。(トリアージ) | 1) | 大きな災害では，病院や医師が負傷者に対して不足するため，治療は重傷度と緊急性によって優先順位を付けて行われる。（トリアージ） | ○ | 教・行 |
| 2) | 「トリアージタッグ」を使用している意味を理解する。 | ○ | 教・行 |
| ⑩ | 住宅等の耐震化について基礎知識を知る。 | 1) | 耐震化の必要性と耐震工法の基本を理解する。 | ◎ | 教・行 |
| 2) | 住宅建築に関する専門家やNPO団体等による実際に行われている住宅の耐震化と現状の講習等を受ける。 | ○ | 教・行 |
| 3) | 自分の家の耐震化についてチェックする。 | ◎ | 教・行 |
| ⑪ | 建築物の最新の耐震，免震システムについて知る。 | 1) | 最新の耐震，免震の仕組みと効果を理解する。 | ○ | 教・行 |
| 2) | 危険な建物を見分ける。 | ○ | 教・行 |

指導時期：**○**機会を捉えて指導する時期，**→**継続指導の時期，**◎**重点的に指導する時期，**◇**再確認させる時期

指導場面：**教**＝教科等，**H**＝HR等，**行**＝学校行事，**部**＝部活動等，**日**＝日常

凡

例